

2011年7月5日

小樽商科大学・北海道大学 第97回対面式  
大打ち上げ会 慰労会 報告書

小樽商科大学応援団を復活させる会  
大坂 則幸  
(平成4年入学)

1 実施日時 平成23年7月3日(日)

【大打ち上げ会】 16時～18時 ニュー三幸 (小樽サンモール一番街)

【慰労会】 18時30分～20時30分 まるた (小樽市花園)

2 参加者

【大打ち上げ会】

合計64名 小樽商科大学 41名 (内、学生16名)  
北海道大学 25名

【慰労会】

合計30名 小樽商科大学 19名 (内、学生5名)  
北海道大学 11名

3 内容

2011(平成23)年7月3日、11時小樽花園グリーンロードにて「小樽商科大学・北海道大学 第97回定期戦対面式」が挙行され、その後、13時より商大グラウンドにて硬式野球部の定期戦応援が行われました。

応援団員は、両校現役学生同士での交流会が行われたことから、我々商大・北大OB、その他関係のある者が一同に会し、母校百周年の年の対面式挙行の喜びを大いに分かち合おうと、「大打ち上げ会」と称し、当番校である商大側の当会が主催した次第です。

会場には、小樽商科大学副学長の和田健夫氏、商大生と両校OBの他、大阪大学体育会本部OBの高橋武良氏、商大元職員の小松宏行氏、そして故山下清貴氏(昭和34年入学、商大第47代特別職)の奥様である山下静江様がお集まり下さいました。この場を借りまして、厚く御礼申し上げます。

【大打ち上げ大会】

16時、当会事務局小西一郎による司会進行で開宴。商大副学長和田健夫先生よりご挨拶を頂き、乾杯となりました。

商大の和田俊輔氏（昭和 50 年入学 第 62 代鼓手長）と北大延齡会からお酒の寄贈がございました。衷心より御礼申し上げます。

暫しの歓談の後、司会より今回の対面式挙行から派生して、ある一つのスピンオフ・プロジェクトが秘密裡に行われていたとの紹介があり、会場は騒然となりました。このプロジェクトについて、商大の仮屋雄二先輩（昭和 54 年入学 第 66 代副団長・第 67 代団長）より、「今回の対面式挙行にあたり、商大北大OBが札幌から小樽まで、徒歩で決戦場に向かおうと夜間行軍を決行。昨日 17 時頃北大を出発し、無事小樽に到着した。」旨の報告があり、会場は大喝采となりました。



続いて、この夜間行軍に北大OBとして参加した村田勝氏（昭和 60 年度北大応援団）から、大人の夜のピクニック、夜間行軍への想いが語られたのでした。

暫し歓談の中、仮屋氏と松尾一美氏そして大橋良太郎氏が、帰りの交通機関の関係で残念ながら途中退席となりました。因みに、仮屋氏と松尾氏そして対面式後にラグビー部の応援の為に札幌に向かわれた海野格氏が北大から小樽までを踏破されたのでした。この三氏と智明寮で同期だったのが大橋氏でした。

宴席では歓談が続く中、司会より指名を受けた商大の植地雄氏（平成 15 年入学 第 90 代団長）から、自身が 2 年前に行った、緑丘祭での商大応援団OB対北大現役応援団との対面式を振り返りながら、今回の現役学生同士による対面式の感想が述べられました。



これを受け、その植地氏に挑戦状を叩きつけた北大の臼井朗氏（平成 21 年度北大応援団団長）が登壇、真実の愛を求めてここ小樽までやって来たロマンチストならではの感想を頂きました。

次に、今年初めて助っ人として着物姿で対面式に参加した商大生の齋藤君から、式典についての、新入生らしい率直な感想が述べられました。

続いて登壇したのは、商大のボート部監督である谷津法彦氏（昭和 63 年入学ボート部）でした。氏からは、先般茨戸にて行われた両校漕艇部の定期戦とその応援の様子、感想などが述べられました。そして、監督直々のご指名で、会場に来られていた現役のボート部員 4 名が登壇、それぞれ自己紹介の言葉と、初めて参加した対面式に対しての感想が述べられました。宴席のOBからは「早く入団しろ！」などとヤジが飛び、笑いが起こっていました



対面式に参戦して下さったボート部に対し、廣川浩司氏（昭和 62 年入学 第 74 代団長）が、フレーフレー、ボートの言葉でエールを送りました。

今年は慶事の重なる年です。商大は創立百周年を迎え、北大応援団は百代と

なりました。更に、北大が主導して始めた七大学定期戦が今年で 50 回目となります。対面式前日にはその開会式が行われました。そちらに出席する為に来札された大阪大学体育会本部役員OBの高橋武良氏も、この大打ち上げ会にお越し下さいました。折角の機会ですのでご登壇頂き、ご挨拶を頂戴致しました。

氏からは、商大と北大の定期戦と対面式で感じた伝統と歴史の重み、何よりも、対面式が単なる応援団同士の内輪の行事ではなく、市民の皆様非常に親しまれていることに対する感想と賛辞が寄せられました。

続いて恵迪寮OBでいらっしゃる門澤健也氏にご登壇頂きました。氏からは、ご同期であり、応援団部屋で、ご同室でいらした太田勝一氏との交友に触れながら、寮の一OBの目から見た北大と商大、両校の応援団との思い出などについて、お聞きすることが出来ました。



会も終盤となる頃、北大の千川浩治氏（昭和 43 年度北大応援団団長）にご登壇頂きました。両校の多くの方々の知るところですが、氏は、当会や商大応援団が企画した様々な式典やイベントの多くに、その大小に拘らずご参加下さいました。長きに渡って商大応援団復活を願っていた千川氏から語られたのは、やはり商大応援団復活に寄せる熱い想いでありました。



閉会挨拶として、当会会長である中川廣太郎氏（昭和 32 年入学 第 45 代副団長）から、主催者を代表して挨拶。何よりも皆様のご理解ご尽力により団が復活し、母校百周年の年に、地元小樽にて立派な対面式が挙行されたことに謝意が述べられ、感涙にむせびながらのご挨拶となりました。



終に寮歌交換の時刻がきました。参加者一同、サンモール一番街に出て、アーケードの中心において大きな円陣を形成し肩を組み、北大側の前口上で「都ぞ弥生」を、商大側は大野潔氏（平成元年入学 第 76 代副団長）による前口上で「若人逍遥の歌」を声高らかに吟じ、エールの交換を行ったのでした。



### 【慰労会】

ニュー三幸で行われた「大打ち上げ大会」の 2 次会として、18 時 30 分から、主に関係者を中心とした慰労会を開催致しました。

サンモール一番街での寮歌交換の余韻に浸りつつも、会場は「まるた」2 階の座敷にて、ぎゅうぎゅう詰めの状態で、大騒ぎの大宴会となりました。

銘々が席を移動しながら、それぞれに対面式の感想や、母校の現状を思いつつ、自身の思い出話に花を咲かせることとなりました。

宴もそろそろ終了の頃、部屋の照明が落とされ、北大からかかった寮歌は、昭和 21 年寮歌「時潮の波の」でした。

引き続き、宴の終了は参加者一同、肩を組み、商大大野潔氏（平成元年入学第 76 代副団長）による前口上で「若人逍遙の歌」を、北大小林充氏の前口上で「都ぞ弥生」を、声高らかに吟じ、エールの交換が行われたのでした。

なお、その後は有志により 3 次会を「マルジェ・ナオ」で行いました。その場では偶然にも、硬式野球部のメンバーと同席となり、ここでもまた、共に肩を組み「若人逍遙の歌」を高吟することとなったのでした。

以上